

ようじえんだより 2020年度10月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

10月主題『たのしむ』

主題聖句：いかに楽しいことでしょう 主に感謝をささげることは

詩編92編2節

- ☆ 0歳児：保育者と一緒にさんびかを歌おうとする。全身を使つてのびのびと遊ぶ心地よさを味わう。保育者との関わりを深め、安心して過ごす。
- ☆ 1～2歳児：保育者や友だちと一緒に祈り歌う。身体や心を動かして遊びを楽しむ。のびのびと表現したことをまわりの人に受けとめてもらう。
- ☆ 3歳児：神さまが創ってくださった「私」を喜ぶ。友だちとの遊びが深まり楽しさを共有する。運動遊びや表現遊びを通して、心を弾ませる。
- ☆ 4～5歳児：神さま、イエス様に愛され、たくさんの恵みをいただいていることを感じる。友だちとアイディアを出し合ったり、試行錯誤しながら一緒に遊びをつくりあげていくことを楽しむ。身体を動かし、心を弾ませる経験をする。

事件の涙

NHKのドキュメンタリー「事件の涙」という番組があります。最近「気づかれなかった障がい」と共に～えん罪からの再出発～という放送をみました。Mさんという元看護助手だった方が殺人罪で12年服役した後、再審請求して無罪を勝ち取ったドキュメンタリーでした。事件は亡くなった方の人工呼吸器が外れていたのがきっかけで発生したのですが、Mさんは「自分がやった」と自白してしまったのです。

事件後わかったのですが、Mさんには軽度の知的障害とADHD(注意欠陥多動性障害)がありました。事件の聴取の時も、取り調べに当たった刑事に好意を抱き、うその自白をしてしまい、検察側が描く事件のストーリーにそのまま巻き込まれてしまったのです。

彼女は幼い頃からうそをよくついたそうです。お兄さんたちといつも比較されて怒られたり、友人関係がうまくいかず疎んじられ仲間外れに

されることも多かったようです。そのような中で、うそをつくことによって相手の気をひこうとする習性が身につけてしまった、というのです。

もううそはつかなくてもいい

Mさんのお母さんは「幼い頃から育てにくさを感じ、病院を受診しても『母親の愛情不足』と言われ、どうしていいかわからなかった」と言います。しかしMさんの病気のこと、生きにくさを抱えて生きてきたことを知り、「私がかそをつかせてしまった」と悔いて泣いていました。

小さい子どものウソは怒られないよう身を守るためであったり、相手の気をひきたいという思いが多分にあります。「うそをつくな」と責めるよりも、「うそはつかなくてもいいんだ」と本人が自覚できることが根本解決だと思います。裁判の最後にMさんは裁判官から「Mさんにはもううそは必要ありません」という言葉を贈られ涙していました。うそから解放され、自分は自分でいいと思えた涙にみえました。 園長：久保田愛策

年間主題『こころが満たされる』

主題聖句：喜びと平和とであなたがたを満たす
新約聖書 ローマの信徒への手紙15章13節